

20240914 学術集会パネルディスカッション

# 地域支援部の取組から

柏崎特別支援学校 土田 優子

# 地域支援部

- 教育相談
- アドバンス
- 特別支援教育Co.研修
- 外部機関との連携
- 短期入院児童生徒の教育保障(各学部対応)
- 校内支援

# アドバンスとは

- 不登校等で学校不適應を示す児童生徒に、  
個別指導を通して、在籍校と一緒に、学校の適應を支援する。
- 目的 学校の適應を目指して、定期的な教育相談や個別の指導を行う。
- 対象 心や体に様々な困難を抱え登校することができない、学校生活にうまく適應できず、欠席がちになっているが、**学習意欲のある児童生徒**
- 場所 在籍校または柏崎特別支援学校
- 在籍校との連携  
支援会議の実施、在籍校進路指導への協力、別室登校や適應教室利用の助言、電話・メール等での**定期連絡**

# アドバンスとは

- 送迎は保護者基本。
- **出欠席の扱い**については、在籍校長が判断する。
- 曜日、時間は相談。
- 週1回1コマ～。
- 在籍校で指導が可能な場合は、**学校に担当が出向く**(旅費はスクールサポート)。
- 利用開始時は、在籍校から市教委に報告する。

# アドバンスとは

## ・相談の流れ

- 1 在籍校から電話・メール等で児童生徒の様子をお聞かせください。
- 2 本人・保護者・学校職員に来校いただき(または在籍校にて)、相談を行います。
- 3 アドバンスの利用が適切な場合は、1週間に1時間程度の試し利用から始めます。
- 4 4回程度の試し利用後、引き続き利用する場合は、学校を通じて「利用願い」を提出してください。

# アドバンスでは

- 内容

自立活動ー自己理解、対人関係の改善を目指した活動

1対1で個に合った学び方の学習(数学・英語中心)

- 活動例

カウンセリング的活動、エゴグラム、心理検査、アサーション、リフレーミング、進学先探し、通学方法調べ、UNOやトランプなどの勝ち負け練習、漢字や単語の覚え方、アプリや動画の活用、検索の仕方、勉強の仕方 など

# アドバンスの経緯

- H21～在籍を動かさない**教育相談**開始
- H23～教室名「アドバンス」
- 毎年 6～15人の間で利用推移
- R5年度は、12人利用で過去最高の400回超(3年生は複数回実施)  
うち、在籍校AD60回、市内病院AD24回
- R5年度途中より、市のスクールサポート事業の旅費で、アウトリーチ実施。
- R6年7月末までに72人利用うち、20人が当校中高等部に転入学

# 不登校生徒の復学

- 発達障害がベースにある子もいるが、**不安が強い、刺激に弱い子**が多い印象。
- 少人数活動ができるふれあいルームの方が合いそうであれば紹介。個別学習したいのならアドバンス向き。併用も。
- **学習が追いつくと**、学校に行ってみようと思い始める。
- **進路指導は在籍校主**。登校のきっかけにする(同行もあり)。
- **全員高校に行きたい希望あり**。公立か私立か、どのような受験か、通信もたくさんあるので本人に合うところを相談。通信は自力学習の力も必要になるので、不登校=通信とは限らない。
- 学校側が生徒と話ができていない、できないケース多い。

# 不登校高等部生徒の声

話せる先生がいればよかったけど...  
大人が信用できない。

保健室の先生だけが頼りだった。

話を聞いて欲しかった。

どうやって勉強すればいいのか、  
教えて欲しかった。

低学年から算数が分からなかった。  
さぼっていると言われた。

自分の得意と苦手を知りたかった。  
もっと早く知っていればちがっていたかも。

大勢の人数がだめだった。

何をするのか不安。  
どうしたらいいのか教えて欲しかった。

10年前に作ったスライドですが...  
今も同じ？

基本的  
信頼  
関係

話せる先生が  
れば・・・  
信用できないん  
だ

話を聞いて  
欲しいかった

支援の  
ニーズ

どうやって勉強  
すればいいのか  
教えて欲  
した

自分の得意と苦手を  
知りたかった  
早く知っていたいれ

学習

少人数なら  
よかったの  
に

自己理解  
自己解決

# 支援の内容

本人の  
特性に  
応じた  
学習  
指導

自己  
理解・  
自己  
選択  
支援

対人  
関係の  
向上  
支援

生活  
リズム  
改善  
支援

基本的信頼感

# 不登校生徒の課題

- 信頼できる大人を作る→増やす。
- 学校・医療＋第三の場所(ふれあいとかADとか)関わる場所・人が多いほど復帰が早い。
- 「人間関係で傷ついた子は人との関わりでしか回復しない」…かも？
- 復帰にあたって、**個別の支援(学習)が必要**な子が多い。**自習以外の方法は？**
- 単に適応教室があればよい、担当がいればよいのではなく、キーマン、核になる人が必要。
- 進路決定は自分で決める。具体的な進学先が決まると目標ができ、学習意欲が高まる。
- オープンスクールは自分が見て自己決定。そうでないと、「親、先生が勝手に決めた学校には行かない」に。設定日に行って、どんな人たちがいるか体感する。
- 「そんなに支援していたら社会性が育ちませんよね？高校行けませんよ？」  
→不登校になったらもっと育たず、家から出られなくなる可能性も。日々の支援。
- 本人との対話をして気持ちを聞く、気持ちの言語化をする。
- 保護者が話せるピアサポートの場作り。当事者・保護者・医療・教育等で→月1回開催

## 病弱特別支援学校この約30年の間に…

- 筋疾患、喘息、心臓・腎臓→入院が長く経験不足が顕著
- 肥満が入ってきた→人間関係の変化
- 筋疾患は小学部から在籍、高等部→療養介護。この10年で、高等部からの転学、通学生、在宅生も
- のぎく分校も、強度行動障害、自閉の超重症児→摂食、精神、心身症へ
- 通学生(心身症)の受け入れ→学校が大きく変化
- 病弱＝不登校、入院生、通学生すべての児童生徒の共通「**自信がない**」
- 挑戦する、チャレンジする、やってみる、得意を見つける、自己理解、自己決定、自己選択。

# 病弱特支校としての強み・できること

- 学校活動全てにおいて「自信をもたせる」
- 少し先に見える電信柱にたどりつく程度の無理のない目標
- 好きなこと、得意なことの話題、体験、話す、検索する
- 学習は基本のみ。「できた」「やれた」「終わった」
- 学習空白に対するノウハウ
- 話す活動。カウンセリング的活動。
- 自分の趣味を広げる、他者に紹介して褒めてもらう工夫
- 自己理解のための心理査、性格検査等のフィードバック